

江戸樂舎用

東武拾遺集

禮學
大全

五

倫訓

全

全

大館天涯先生著述

禮學 五倫訓全

附祿童蒙必用

明禮堂藏板



五倫訓序

古之君子。以正心術。養德行。為先務。故雖在閨室。屋漏之間。立不愧影。坐不愧茵。無毫髮之可悔。此君子之所汲々。而不敢惰者也。若夫索渺茫之理。貪記誦之博。矜父詞之巧者。後世之所嗜。非古人之所耳也。吾觀古人之書。暫者若質。俚而熟讀之。有至味存焉。大館先生。以禮學呼唱于天下。慨世人之急。文詞而薄躬行。著書數十篇。欲顯日用彝倫之道。今又為蒙生述此篇。為行遠升高之捷徑。先生自言。夫禮不離

形迹。而天理之粲然者存於其中。世之言禮者。特習儀以周旋。而禮與儀判然為二物。此逐粗迹而遺精英者也。此魯侯之所取譏於晉國也。其能備之者。諸家之所歟。而吾家之所獨也。廉於先生之說。亦嘗其一齷。至其所謂精義妙用。非吾之所敢知也。程叔子曰。自灑掃應對。可以進聖人。其善知叔子之言者。而後知此篇之有味矣。

天保七年丙申正月

備中神埼廉序



己倫訓序

予生長草野。熟視農夫所為。及其將播種。先耕而後作。酌作則以心子穀。乃于苗。系以上。親之熟上。上以推其根。其使之。陽風與旱。其培出。古乃時。生者成。計。躬。顧夕。檢。閱。了。焉。只。于。不。從。了。恤。亦。自。此。有。早。深。才。蝕。賊。了。火。必。穢。了。穰。了。倉。庫。充。盈。人。育。子。女。亦。未。宜。慎。於。農。夫。性。培。養。然。而。其。計。者。百。一。二。何。事。皆。

坐其姑息之愛耳故放逸于賴而不
父兄之取蕩滌家之度厚先喪已甚則
至矣子犯寸心之刑實因教之無素
大館先生云誰能恤其如是為誰生
文公意云家以和向又甚已之以教育也
之方其老波安心可謂切也然則也為人
父兄者以能以之為法其教以和實如
農夫性業播種耘耔追時而不怠心
皆入之善人矣子之試必矣易之云可以養

正聖之功也蓋道之也或曰古計六歲教
之數典方名八歲入小學學幼儀云云
今二歲已教之儀之在大早計乎曰八
歲入小學于小學書計肄以同諒也初幼
儀且曰禮帥初則七歲以前非于教也者
乃氣尚柔之愛身者胎養之存言也
後二歲而教之乎哉禮云凡事豫則
立不豫則廢不立不學矣尚此語如深信
先生之云東向也唯之而退遂深此也

冠了、端云

天保六年己未除日

備中府助昌隆序



禮學 五倫訓 自序

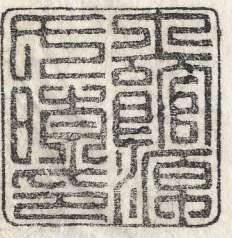
○上古の聖人、繼天、以て、礼を制し、遵化、以て、教を立、
 人成して、以て、自禽獸、小別、事を知り、去る、以て、今礼の
 大教、五倫の及、此、教へて、以て、公と、威儀の、小教、を以て、
 體と、以て、是、而、が、家礼の、教、は、る、故、小教、を、以て、勸、ま、は、り、
 其、教、上下の、男女、にも、行、住、座、卧、小、忽、容の、作法、
 正しく、なら、し、而、後、心、正しく、なる、心、正しく、なる、而、後、
 身、心、とも、正しく、なる、身、心、とも、正しく、なる、而、後、
 身、脩、まり、家、教、天下、も、傳、ふ、なり、是、す、か、ら、古、聖、賢

の代此実学の教法なり、故小は実学の教法を、
 学びて、是を家小用ゆまば、家よりそふに
 行ハ小より治り、天下に能をば、天下平なり、故小
 習学ハた人々世学此世俗なりとも教月なりむし
 て、一同若人小仕立分礼学なり、け五倫訓ハ、老よ
 左右小童く、寸暇の時く、讀書へく、子背小くく、讀
 笑まふし、又長者を、讀書く、幼者へ源切く、讀書く
 十二三歳もなりかハ、老小讀書く、公小讀くああば
 成人の後ハ、男女とも、一同若人とありて、容も心も

正しく身も脩ま、家も治り、教年ありて、一玉中
 礼学明ふ妙ひ、容も心も正しくなりて、此を脩め家と
 治捷徑の教と一卷小綴りきむら席をばく、心もきり

于時天保六己未冬十一月

平安 明禮堂 大窪氏晴天涯謹誌



凡例

○當家の禮學ハ上古の聖人制他志後ハ一禮儀威儀
 兼傳の禮法ハ一七本朝ハ八人皇十七代仁徳天皇ハ百
 濟國の王仁より傳りて其後鎮守府將軍陸奥守
 源義家公ハ傳りて後一度ハ亂世有ても義家公より
 畠山氏晴と二十五代の末孫少く代貴子相續
 故禮學も代々怠慢なく相續して今世專ら及守
 を承襲なり

○聖人制他一法ハ一禮學ハ法學相傳りて為事に



有り用て其用益廣大小して習熟とて自智自愛
とる修行なり

○當家礼學は男女とも容の依法正しく威儀と次は
非禮の教へを教修経意の業へハ礼儀と教へ
其教へを約して忠孝を勵て五倫の及とありを
けいひ勤るは學の教なり

○威儀の教の所作又ハ書籍の類も括て修めしハ
法學とありし言ハ流りあり意ハ涯りぬし意の
大要を著し書して同志の人を便りなすしんと

○當家小教る礼學ハ初位のこも生涯の首と成こ
故に五位迄修行する時ハ其要益生涯に及なり況也
経済法學とありし教も時ハ至政法難して君臣
より領分中と進く困窮小教り時ハ年限定め
あるとあり善政よしくも仁政極育とおこなひ
法學とあり礼學経済學ハ法學修行の大業なる
は法家の學の法と異いなり所成なり

○當家禮學と教へる経済儉勤天命此六字とて
千變万化しはく用く法學なり人次第に自智

自發し習熟するまでハ如竹板の儀生束してモ尚
即妙臨機應變小用らく理を就味まへ

○尚家の禮學ハ、儀學の教法及博學にして、教人の
業ハ、教人と為る故に耳此學ハ、貫學と名を、終ハ
表子の徳小むけなり。又世學の世俗ハ、經書と讀むん
も、禮學の教法も、教法あり。五倫の教ハ、書ハ、無學
の男女も、讀易のため、平かか付小して、教法處
常に左右小教さる、漢して、一回善人小仕立、教法

禮學 五倫訓目錄
大全

○禮學發端

○五倫發端

○父子之親

○君臣之義

○夫婦之別

○長幼之序

○朋友之信

五倫訓目錄終

禮學 五倫訓
大全

平安 大館氏晴 天涯著述

備中 鷓鴣昌 大郷父校正

○禮學發端

○大古の學問といふは文字なきは、後世に書物なり。故に
先王聖智とみく、天地の居と所とせり、天の居とハ一理
一氣、海陽、五行の事也。天と君とハ陽なり、地と臣とハ
陰なり、天より能くくふ、雨露の恵と、地より、草木の物
と育るハ、天地の礼なり。是と見て、天よ、継ぐ極と、まうに

五倫訓

大いなる礼を以て以て君の方を、前の法を定免
 ぬ、位ハ君の作を承りて、前子と謂ふものなり。
 子の親より事へ、婦の夫より従ふ、及もかく此の理に
 背き、我位なるハ、天地逆来ならざるゆへ、此を
 至理として辨るなり。大ハ物と焼、小ハ物と淫と、
 の大と瓜及理と、小と物と焼、大と物を淫と
 事ハ、なほぬ、人の位ハ、是と至理といふ、かく物と至理
 と非ともを、知り分るが、太古の學問なり、堯舜の
 時ハ、民と書ハ、育る具ハ、大抵成就といふ、万事

此制度を以て、多く此賢人を奉用ハ、倉儀志の
 五倫の及瓜制他して、天下小教と施し、上下万
 民ともよく用ひ、慈を以て者なりと、其外万事
 の制度と定め、ひより、天下と治め、民とあはさるる
 大いなる家け、万世の規矩となりぬ、其後代も久く
 かりて、善事も多く、悪事も多くなりて、移さあさ
 り、其善悪を書記し、わけ、善を以て、悪を
 いまし免と、周の成王此時ハ、文明の運極り、器物、飲
 食大いなる、なほ、為さ事か、安んじて

人徳の溢るる志あるべき事と察し、その用公止と始り
 多くの賢臣朝廷と會儀あり、礼儀三百威儀
 三千の礼學を修り、教を天下に施し、治り
 上下に能く用ひ、和睦し、天下豊に治り、盛れ世と
 成り、礼儀の防法多く出来り、期敷細やふ至り
 昔時祈位小法して修り、今世禮、器物多く、飲
 食等に奢事、周の盛の衰なり、誠べし、礼でも諸侯
 大夫士より農工商小吏、礼儀威儀兼備の礼學と
 あり、依義の時に、依義の民、礼儀

の衰なき時、礼儀の衰なき、質朴篤厚にして
 私情欲なく、利害なく、今世の民、情欲厚く、利害
 深き事、其多し、千百年にあたり、根固く、深き、是
 ハ、礼と儀兼備の礼學を知らず、唯、詩文に、長き、
 のこと、學問なり、と、心得る、小、學問者、多く、
 経済明ふ、家、天、睦治め、仁政、振育を、と、
 真の學問者、い、礼學、知、る、學者、ハ、大抵
 教、なる、若也、況也、を、學、此、世、の、情、欲、厚、
 民、に、人、の、為、成、へ、一、回、善、人、は、初、學、此

時信捨、勅の三字學と教る也、信ハ古の聖人堯舜
 氏王周公且孔子を、信とていふ家也、才二の捨は
 今と知らざるをいふ、才ハ必む疑ハんまゝのなり
 疑ハんまゝハ才一の信ハ字程くは依り人、たとハ被ま
 たる羊履を新と羊履に毛脱むとて、疑ハんを
 捨りし不義なり、才二の勅ハ、礼學修行小成てハ
 其修行の勅にかと入ふといふ家也、比ニ字と教て、次ハ
 礼儀威儀をて、教ハと約小法を教へ、次ハ五倫の
 名を、其美ハを以て、毎ハ教へ論ハ、かくれとて、たよ

或る時ハ、教ハの男女を、忽容正々ハ、女倫の及ぬや
 かに身ハ、身に修ハ、修身齊家治國の也、礼學を
 修ハ、教ハとて、後ハ、修ハの子を、始ハ、男女も、教ハ
 下ハ、教ハ才ハ、修行とあり、教ハ才ハ、生涯の身ハ、女下男
 下女也、禮儀作法正々、家風と成、そのよし、相解力も、家
 付他人にも、教ハを、修ハ、修ハ、年を、修ハ、修ハ、一用ハ、
 重ハ、和睦ハ、一玉中善風俗ハ、あつた後ハ、勅儉の二字
 と用ハ、捷徑の教ハ、友今、才ハ、富ハ、才ハ、才ハ、
 又、困窮ハ、才ハ、其困窮を、免ハ、返ハ、才ハ、才ハ、

天理てんりふふくく必かならず能なりふふんんままををううくくと

○五倫發端

○大古聖人たいこせいじん人ひとととてて禽獸けいじゆうのの振おと存まもああるるをを慕たもひひたまたまひひくく
人ひとのの乃なりととおおへへくく人ひとのの乃なりととハハ五倫ごりんのの乃なり也なり父ちち子このの親おや君きみ臣おみのの
義ぎ夫う婦ふのの別べつ長ちやう幼ゆうのの序ぎよ朋とも友ゆうのの位ゐ是これ也なり其その親おや義ぎ別べつ序ぎよ
位ゐのの乃なり用もちききハハ經けい禮らいなりなり經けい禮らいをを行なふふハハ威い儀ぎ小ちひららうう即すなはちち
家け禮らいハハ禮らい儀ぎ威い儀ぎ兼けん備びのの教けう法ぽうをを知しるるハハ夫おの天てん地ち
乃すなはちち間ま小ちひ人ひと經けいををききここののハハかか一ひと其その乃なりハハ禮らい儀ぎのの道みちをを知しるるとと
五倫ごりんのの乃なりをを守まもりり行なふふハハ左ひだりなりなり鸞らん鶴かく儀ぎととののハハここもも禽けいなりなり擇まりり

能よ言ことばともとも獸けいなりなり禽けい獸じゆうハハ禮らいもも儀ぎももかかけけままハハ親おや子こ兄あに弟てい食たをを
争あひひぬぬ人ひとととてて五倫ごりんのの乃なりハハ守まもりりをを忘わすれれるるハハ禽けい獸じゆうとと同おなじじ
是このの故ゆゑハハ五倫ごりんのの乃なりハハ守まもりりをを忘わすれれるるハハ有あるるべべしし也なり禮らい儀ぎのの乃なりハハ知しるるべべしし也なり
有あるるべべししとと其その是これををおおへへるるもも學まなぶぶもも位ゐ時とき祈いのちのの三さんつつをを弁わべべるる
知しるるべべししととハハ諸しよ侯こう大だい士し夫おの士し農のう工こう商しょう也なり時ときととハハ和わ漢かんとと古こ今いま
なりなり祈いのちととハハ社しゃ會かい法ぽう儀ぎ禮らい儀ぎ郷きやう里りなりなりここのの三さんつつをを知しるるハハ禮らい學がく
藝ぎ得え不ふるるももハハ學まなぶぶ知しるる行なふふのの君きみ子このの場ばもも弁わべべるるハハ聖せい人じんのの
乃すなははちち誠まこと意い正ただ心こころ脩しゆ身み齊せい家け治ち國くに平へい天てん下かととくくよよももかかここ
きき道みちなりなり人ひと士し以上いじやうのの乃なりハハ經けい濟ぎ要やう辨べん小ちひ者しや一ひとととれれハハ

夫小昭々ぬ然る小農工商の中にも聖人の乃と教へる小と
 学ぶ小もいふぬもあくして仁義の道は小なるハ稀也唯
 古代の子を知り侍文小甚る小就王慢心はよく人を極め
 悔了も学問と教之藝といはくする者も多し教へるに
 事なりとてや、予々家礼の学ハ威儀を以て容を正し礼
 儀とて情款の教人を約小法を教へる以人整得ふれば
 此情り、家齊い其大いあるハ國を治め仁義の道徳小も
 ありとて、禮記小礼也者、指體體不備是不成人と謂と
 あり、

○父子の親

○父子此間中を親といふを以て道と定先く、天下にあ
 り、此を立つよか、立偏といひ、其一人に者其親を以て
 立教し、小なり、其内父母の子を生るハ天地の万物を生る
 乃理より出く、父子の偏と定むるなり、其教といふハ父
 母と、親といひ、子小ハ孝といふなり、む、父といハ母も、其内小
 けりといふべし、然るに、父母より者、子を生るは、其子
 幼き時より、人の乃と、各夜も、其戒より事なり、是
 父より、其子、其真実、其意、其親むといふ、其のたを、

此も骨肉の親ともなく、夫婦此れを親とせば本も
 見えん、夫婦、自ら為く、親く、あふなり、是ハ友の力を
 知るぬ、火あり、友の更り、正しく、本を、示す、父、子
 君臣、夫婦、兄弟の、男も、能く、成す、して、今、名、夫、の、と
 不義に陥る、人、されば、父、子、君臣、夫婦、兄弟の、は、倫
 不、成、終、ぐ、又、朋友の、一、倫、を、と、る、も、重、き、禮、の、多、重、又
 か、く、れ、と、し、

○禮記、獨り、學、ぶ、と、友、を、け、る、は、固、陋、不、し、て、聞、こ、と
 ま、く、な、し、と、い、ふ、り、固、陋、と、獨、り、不、し、て、使、さ、也、夫、天

此の廣き、古今、これ、た、し、き、万物の、多、き、及、理、ハ、奈、ま、さ、不
 混、り、あ、る、然、れ、ど、人、の、心、ハ、靈、明、な、る、もの、み、く、め、る、先、づ、後
 事、た、り、し、た、れ、ど、友、の、相、合、な、く、唯、獨、り、此、を、學、ぶ、ゆ、え、に、
 知、る、ゆ、も、授、く、陋、く、し、て、終、不、ハ、乃、を、見、終、不、事、あり
 友、を、得、く、相、俱、不、具、智、を、廣、め、誘、り、を、正、し、と、と、せ、
 信、の、乃、不、毛、適、不、盈、と、事、也、友、の、德、益、大、い、なる、ハ、珍、
 乃、び、と、し、

○論語、曾、子、の、曰、君、子、ハ、友、を、と、り、く、友、を、會、し、仁、を
 輔、く、と、り、く、夫、君、子、の、學、ハ、公、の、智、を、め、く、と、り、く、と、し、

五
 三
 四

身の初はつを勤こるもの二ふたつあり。友ともの補たすけなけむ。その
 五ご進しんとがごとく、君子くんしハ、經けい濟けいとく。有用ゆうようの学がくなり。ゆへ
 公こう登とうの拵しなびを以もて、出い會かいをなす。經けいハ代だいを治ちめ人を
 治ちめ、濟けいハ世せいを濟けいめ、人をまゝふ事ことなく、聊いささも有用ゆうようの
 学がくハ志しよりんば、皆みな有用ゆうようの学がくを志しす。然しかれども、
 人ひとよりんば、志しも有用ゆうようの道みちハ、文ぶんあり。学がくを以もて、友ともハ、
 友ともハ、俱とも小せう礼らい学がくと云いふ。倫りんの乃なりを始はじめ、先せん聖せい賢けん、其その乃なりを縁ゆかりと
 て、右みぎ今いま此こゝ事こと源げんを考かんがへ、其その理り、成なりゆへ、免めんぬ事ことハ、
 倍たがひ倍たがひと云いふ。仁にんとハ、公こうに依より、其その徳とくなく、善ぜんの、美い存ぞんなり。

友ともハ、交まじりて、互たがひ小せう其その善ぜんを取とり、用もちひ、其その過あやまちを正ただし、
 友ともハ、初はつの初はつに備そなへ、其その乃なり仁にん徳とくも、日ひに進すすむ。是こゝに、
 友ともを以もて、仁にんを助たすけ、友ともの厚あつかき、五ご倫りんの
 小せうは、其その乃なり甲か斐ひと云いふ。其その乃なり、交まじりて、互たがひ小せう其その善ぜんを
 取とり、用もちひ、其その過あやまちを正ただし、友ともハ、初はつの初はつに備そなへ、其その乃なり仁にん徳とくも、日ひに進すすむ。是こゝに、
 友ともを以もて、仁にんを助たすけ、友ともの厚あつかき、五ご倫りんの

禮らい學がく 五ご倫りん訓くん下げ之之卷まき終つひ
 大だい全ぜん

五倫訓下之卷終

五

禮學童蒙必用 目錄

○發端の部

○兒育の部

○衣服の部

○言語の部

○歩行の部

○掃除拂拭の部

○素讀手習の部

五
冊
三

付

五
冊
三

四
十
六

○雜事の部

目錄終

附録 禮學童蒙必用

平安大館、氏晴、天涯、著述

備中鶴鷄昌大卿父校正

○發端の部

○夫農工商の童蒙と賢と善人より小ハ先父母よりものと、
 善人小教へるも也其理いんとふまたよハ母と田代と。父と農業小
 切者より。又紀し多あり。上田なり。紀しもわがく。七。耕他と
 不切者よりハ收納の時必と取実かか。又紀しと多く入耕他切者

亦しても田圃の土性下田を六、收納の時必も取実少なきものと同一理
 にて母の田圃より父の耕作切者あり其間亦出生せし子依ハ成人有
 ても子ハ父母の心を以て我をとするものありて子ハ父母の心より
 正身の内いよ幼き時より子ありて成人する友他の教へを以て
 一ても自然と愛さ善人は育るもの也成人して六親不孝なり家内ハ
 睦まじく下と憐れよと教ふ友沖法交とあり檢勅をありて家業を
 精出し儉約とあり天賦の善人は成人するもの也沖上ハ忠となり
 祝ハ孝也忠孝全き時ハいよと依ハの家風とする時ハ自然と
 天命亦いよと進み子孫繁榮する理を亦人知る一故亦予が

家礼の教法ハ威儀とあり容の他法正しく仕立礼法我修經意の
 教と後儀とあり約小く容と公と正しく身備り家より存ハ五常
 の性徳五倫の及とあり教諭する處也人よりハ礼學ハ學ばざる
 者べしと知るも人ハ五徳とあり礼學の教法ハ久く中絶せ
 友博學小し待文又賢き人も知るざること多し況也無學の世俗ハ粗文
 知るも成人せしより子と持ても學ぶ善人は育る成人するハ
 友博學也農工商の中にも師小付聖人の道礼教を以て傳はり
 とした博學のそと仁義の道德具りる明師の稀なるゆへ
 聖人の及と心小守り身よりハ軍稀なり是皆師有放公の位學問

中よりあはれしもの也。在故小農工商の童蒙を授き善人
 する礼學ハ小兒二歳の時を女法の育法と著し次は宋の大儒
 朱文公の撰むるひし童蒙須知を和語小して我々の童蒙の
 見事とやう小釋し彼は小初りも。我が小なきものハおふさ
 かりて叶ひぬ事と。かゝりし童蒙必用と題して。童蒙と
 う記及ふいごあひふらびき善人かゝる志めん。大老をとい
 はむ。節をとりぬ宜しむを絶む

○ 児育の部

○ 凡小兒ハ湯あはれし。汚穢のかれずおすべし。毎朝教をわ

むるべし。初めの程ハきこひても。後はハなめて。きこひぬかう小なる
 べし。二歳小なれハ毎朝母子こゝろかゝる。あそびと合せ父は浄礼
 とて。おもてをいせ。あはれす。かゝるに。母にも。浄礼とて。事とせ。な
 する外。祖母と母と。皆。化人をも。見ら。び。小。法。礼。す。事。と。せ。な。む。べ
 し。な。り。人。生。出。て。始。り。し。法。を。さ。げ。く。人。は。法。礼。を。ら。む。と。な。り
 二歳小なれハ。毎朝。影。の。ひ。口。も。ぎ。日。輪。小。な。る。と。な。り。二。日。し
 十五夜ハ。月。星。小。な。る。と。な。り。人。言。ひ。初。め。小。な。る。と。な。り。お。う。さ
 かい。あ。は。れ。さ。ぬ。お。見。さ。ぬ。お。わ。ら。ぬ。と。な。り。人。言。ひ。初。め。小。な。る。と。な。り。お。う。さ
 其の言はく。ひ。あ。す。小。な。る。と。な。り。人。言。ひ。初。め。小。な。る。と。な。り。お。う。さ

登し、とどめよりあしきくせはきしと、後改つてえんふたふとびと
 わしきくせハ、ちりごし、なふとく、其のどめふんをにけく、あし
 三歳八十と定む、とひ、又この子のふ百歳とと、不、後、も、ま、三、四、歳
 の時より、む、へ、育、ま、さ、四、歳、ふ、あ、れ、ハ、細、子、く、記、す、沖、女
 親を始ぬ、祖父母様、(は、子、ふ、世、を、り、中、す、) 敬、い、く、法、礼、を、さ、と、べ、し
 次、ふ、東、西、南、北、と、な、(其、外、別、物、の、名、と、見、身、後、育、其、名、を、し、ひ、あ、べ、し
 五、歳、ふ、な、れ、ハ、短、子、く、起、く、手、あ、は、も、き、し、て、沖、女、親、之、例、の、と、く
 敬、い、く、法、礼、し、て、ま、さ、す、神、の、柳、(分、ひ、お、れ、) して、お、女、親、様、の、沖、接、姫、様、
 や、に、お、ま、せ、ら、せ、と、敬、い、く、お、り、次、上、佛、檀、(お、り、く、佛、を、礼、) 法、見、祖

ぐ、靈、亦、と、敬、い、く、沖、礼、を、さ、す、と、な、(病、) 三、八、法、見、(麻、ま、す、ら
 と、若、く、父、母、の、凶、免、と、ま、く、麻、ま、す、と、な、(三、度、の、食、事、を、沖、食
 を、い、く、ま、す、と、法、礼、し、て、食、を、敬、い、七、歳、ふ、な、れ、ハ、孝、行、と、な、
 沖、上、より、法、儀、美、を、下、さ、れ、又、親、不、孝、し、沖、法、儀、を、お、背、
 時、ハ、手、入、掌、し、て、其、上、忍、愛、沖、仕、並、ま、す、た、お、り、く、と、い、敬、い、又、作、と
 ね、と、て、筆、の、た、を、交、(其、業、) の、要、用、お、勤、る、程、お、修、行、と、な、
 何、程、身、體、の、衰、え、高、の、子、た、り、と、も、人、は、生、物、と、い、ハ、孝、行、一、を、
 作、お、付、素、淡、多、い、過、く、其、義、理、を、承、り、り、ぬ、ら、わ、孝、行、と、勵、じ、
 八、歳、ふ、な、れ、ハ、礼、儀、威、儀、兼、備、の、徳、業、と、男、女、と、も、其、親、く、仰、ま、す、と、

五 冊 訓

フ 四

子ハ初ニシテ眞実ハ達者小多ひく。檢見免刻眞法。法帳面
 法於書等。達者小勤。か糸修行すべし。修了凡學問。は昼夜とも
 勤る。又旅筆眞術者小勤。んと昼夜修行し。修了天職。る
 家業小怠。ると。深く戒すべし。京都に都。浪走。上高の子ハ
 胃女。孝行をせし。理を明く。禮儀威儀兼備の礼學ハ。おふを
 其分派より。てハ。和歌ハ。祝いの。と。若月花の。飲を。誦多。比。女ハ。琴
 三味線ハ。紐。むら。おひ。と。必。と。上。右。人。よ。お。と。入。を。多。多。比。比。
 糸。く。意味。ま。り。と。初。べ。し。紐。計。仕。立。又。ハ。男。女。九。糸。の。湯。生。花。等。も
 かし。ハ。お。し。と。重。を。し。減。下。又。ハ。市。街。舞。里。も。其。分。派。小。正。し。お。夜

の藝ハ。変。更。一。國。所。小。考。と。ハ。女。子。ハ。登。を。甚。以。務。糸。と。取。ま。務。と
 此。紡。織。と。織。本。務。糸。と。紡。等。と。う。み。布。と。お。ん。を。織。て。紐。計。洗。を。ぎ
 仕。立。物。ハ。洗。分。精。本。一。更。一。元。来。郷。里。の。女。れ。子。の。持。ハ。飛。ハ。用。も
 か。き。と。の。お。り。ま。れ。ど。も。今。の。代。の。凡。俗。ハ。吹。琴。三。味。線。ハ。か。し。も。お。り。ぬ
 や。う。小。ハ。い。び。ぎ。け。是。凡。同。と。く。ハ。紐。少。く。事。たり。ぬ。べ。し。を。り。お。は
 洗。ふ。ら。る。の。恐。わ。り。に。お。お。小。上。子。なり。とも。紐。計。織。行。洗。ひ。ま。ご
 仕。立。物。の。及。小。味。草。れ。ハ。嫁。し。と。後。極。と。苦。し。く。下。一。己。が。家。を。お。て。も
 さ。し。つ。と。も。多。く。世。帯。持。も。わ。り。お。と。一。琴。三。味。線。ハ。鼓。目。女。鼓。者。の
 家。業。あり。と。正。き。婦。女。の。玩。も。お。り。た。上。代。周。の。盛。ん。なり。代。と

王侯大夫士小吏と婦人ハ皆其夫の指を織しる有り、又水
 産上高の婦女とて、花巻の玩物とて、一日と送り、女乃
 持前の乃を外小す、ハ大いなる事なり、女ハ公約あり、月と
 ちり治し、よのなは幼少の時より、親の教へ別く、公とて、
 育ざね、嫁し、後、男、姑、小津、まに、あは、く、又、親の扱ひ、
 ちり、よのぞり、し、げ、友、小、幼、少、の、時、より、乳、母、我、後、經、通、等、ハ、意、
 戒、れ、育、べ、く、女、ハ、三、從、と、て、お、小、け、り、と、六、親、小、從、の、嫁、と、ま、は、從、
 老、て、ハ、子、に、從、ふ、と、何、れ、ハ、頃、ふ、と、ふ、ま、と、又、身、を、稼、ま、と、貞、節
 と、守、り、る、の、ハ、実、小、津、切、小、お、あ、べ、く、男、の、子、ハ、調、お、お、あ、べ、く、澤、り

とて、お、お、ハ、中、々、禁、む、べ、く

○夜振の部

○夫人とのハ、先身體の正きを行、あ、ま、ま、ゆ、人、お、夜、振、事、も、
 身、小、看、も、との、大、切、小、五、振、ひ、く、廉、略、小、す、ま、ま、と、ま、ま、ま、ま、
 振、つ、ら、ぬ、ま、ら、不、潔、ひ、と、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 う、ん、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

○九夜振と看、る、ん、ハ、先、終、振、と、扱、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 登、り、流、飲、食、ま、ま、時、夜、振、と、行、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 道、新、時、も、振

とよこぬやうおすぞ

○元夜被と控く其儀故乱一塵埃小汚りのこなきぞ着
せし時折目正かどどく見若しく必たそそ、算算箱匣
の中へ金ハ亥不入用の時もあるさすの事ひなり

○元夜看るる夜被と夜寐る時着うえど其登風生すべ
かくすは着夜被感後きううかなれおど夜被費もまほ

○言語の部

○元幼少の時より常ふん言おどおうも依りて言禮のつ廣
やうもどくしを必だ言言かぶらうど喧鬧うはべうは難く

あくこのふべうど大威後へうど長上よりお入りあは
おどつき首をむく、諍くう、徳へ、表笑くとおひ利口
の振おかすべうど振見すべうどおくびすべうど長上より
あへたもるうつらば情ぐあへへ若長上の儀お供うまた
段座ふ其令解すべうど志づくくそ席を退き又出くゆやふ
くくそ節を速く恐くく先別れおひるりかなへくそ時ハ
長上のんを傷忤ど事の理おのりううぬうなり

○元人のようぬ事とあすをゆめとも笑してお外お供えくぞど
使の男女とも儀りとゆ過らとかなさもつと藏してびそふ

若く改めざる

○歩行の部

○元途中と歩行ハ端正あるべし趨時ハ勤搖すべしと古物を
踏たらざるやう小すべしと化家行時ハ門の裏扉とふじへを
家の上より時おはると先ふと掛へく尤の足よりよるべし

○元父母又ハ長上の呼せり小時ハ先言して早く進むべし後や
う小すべしとむ

○元父母と子と歩行時ハ足とりて儀をするん指を教ひて行
へし化人少くも年二十より上を化ハ父のよひあるべし一足り

て行べし兄と行時モ目やう小肩を並行して不礼な儀は
肩たがひ小ちりて行べし化人モも五六も年上ハ肩たがひよ
りべし長幼の禮と行ふべしなり

○掃除拂拭の部

○元幼少の時を指受の席を掃除し文庫の埃とを
ぬぐい常小清く小すべし筆硯と外常小用ゆふと
と投ちり小すべしとむつゝ心なむくハ元の所小塵と垂べし

○元父兄長上の座し小所の書箱書籍の類ハ取乱し
元所射るにもんを射ひくまくと大み小しと懸しなむ

○元子おひとまふ墨の上の方と孫いづまぬやふ正しく扱て
手とけさぬやうとべし 巻をとるにも言うとど低くどば
おひの子おと見く巻のいろゆきさこ遠らぬやふは

○雜事の部

○元喧嘩口論の場扱て危き祈ハ迄よまぐとど七八歳の元
よりハ至るの扱すべし

○元喰物ハ父母よりたまらよハ喰父母の與ふ時ハ孫
求むるくま自り買そ喰ふとあすべし

○元火燵火祈の例ハせまり迄考べしとど容の不仕法と

元昔きこのこなりと衣箱を焼損むるの事とべし

○元及と歩行ハ龍の方考て行べし 別く人集りの扱とハ
控込くたより考て行べし

○元長上小使ハく及行時ハ左の扱行べしとどまる時ハ左
きにおるべし

○元下男下女對して、歳まなぐべし 伍初小も戯なとど
くど

○元道行時長上のまに遠時ハ左の例小より扱ひて扱を
かすべし

○九長上のいことゆふハ名をいふべし士以上のいことハ苗字
ざらりを採すべし

○九父母又ハ長上ハ外へ出るハ何方へ行ますと書て行べし
ゆりし時モ只今ゆりしと書べしわりの男出るも日し

○九及ぶゆふ家刻り方人小逐時ハ縁をわきて教ひし
禮をわきとべしいものゆふゆふバ不禮のいふ家かすべし

○九父母長上の前少くハおとと書れよふつきともいふべし
たづひゆふゆふハ禮と実とわきと書べし

○九戸障子つけたて者言くすべし又たての者言くすべし

○九大衆の中ゆくハ人の妨ふかぬ中ふ座すべし

○九人と休む門を出入る時人小先後する議りの禮を
かし又座をまふも日し

○九長上ハを拜てまのふみわハ右のいことつき左のいことをはよ
掩てヤとべし

○九童蒙の礼ふ所他ハ其正所小考くおと替りゆりす
兼来禮はとゆふ風古の善悪を質の善悪を富の礼政勢

の善悪童蒙の礼ふ所依書小ふとを毎齡既小八十小修りて
も今小活蒙たる民事の修りし尚世の上下の人恒小修り

其抄ふ音更の一二をおるる處也

○丸鳥絨いかり上のの抄び上ごふそいとい西ま少せハ幡はたとい東ま團だん蜻せみとい竹たけ梯はし上ま玉たまお抄び業わざ標いし馬まなるの抄びハ昔むかしか海うみト乳ち血ち行りてま生まともあるべし

○丸女まんなの子こハ抄び夜よ抄びハ鞠まき抄び款くわん局きよく取と抄びハ昔むかしかろまし女にの子こハ智ちと用もちたよりふもある人ひとなり

○丸ま悪あき抄び子こもま所ところ小こよりそふく有あ中ちゆう小こ礫れきお抄び本もとより一ひとて本もとの枝えだより花はな下した抄び本もとの枝えだハわ絶たをうけくぶらくとひり抄び正月しげつの七なな五ご三さん繩なは免まりハ門かど松まつの飾かざり物ものとまるる香かぐ團だんとハ雪ゆき玉たま

の授あづか合あハ竹たけ杖え馬ま抄び犬いぬのうこ合あハ抄び福ふくのらんらんんんははいい号ごうのあ画えき抄びハあままへへくくとと矣や

○丸ま辻つち宝たから引ひき芝しば兵べい役やく者ものの紋もん付つけ糸いと双ふた六むろむむ豆まめ山やまたたままととろくどろくど穴あなおお想おもててううけけのま務む負おハくくくととととべべくくととべべくく

○丸ま戸と隙ひま子ことと漏はくく物ものささららのありりのありりをを射あハままますすくくとと矣や

けけ外がももふふくくくくりりききおおへへままししとといいどもども大たい略りやくとと著ちやくししぬぬ右みぎのさ短たんををよくよくそそんんへへくくおおひひ性せいとと成なり中ちゆうににまますすべべししききおおひひつけつけままくく成なり人ひと小こ後ごひひくく聖せい賢けんのま書かきをを学まなぶぶくく及およびびゆゆめめ禮らい儀ぎととおおひひてて容よう貌ぼうをを正ただしくしくまますす身み脩しゆう家か奇き

其德澤そのとく子孫しよんも傳へ又化の人ひとも及およぶべし

○禮儀威儀系備の禮學教法の次序

○八歳より十三歳迄ハ三ヶ系

○十四歳より十六歳迄ハ草の初儀六十八ヶ系

○十七歳より行の初儀百二十八ヶ系

○十八歳より八真の初儀二百三ヶ系

右の通活用の礼學相傳へる儀也

禮學五倫童蒙訓跋

中備倉敷 官府之奉地也。天保甲午歲

豐舎始建。其館曰明倫館。傍舎曰自省舎。

館講終義舎用道詔。導學生於館。諭未學

者於舎。此君子之教法也。天涯先生歳八

十二以禮學履歷天下。偶在于斯。見兒童

之訓未備。欲優系以進于禮儀。遂著五倫
 童蒙訓。其勤可謂至矣。嗚呼。政教之備。悉
 若此也。斯民之遷善。亦可期也。是不特
 賢令之賢實。賢丞之賢也。天保丙申夏
 五月刻成。兒島信謹誌于其尾。



江戸樂舎用

尾道
野間直多